01
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

情報通信業

株式会社オプティム

佐賀から革新的なイノベーションを起こす

ネットを空気に変える

AI※1、IoT※2、Roboticsサービスなどに関するライセンス販売・保守サポートサービスを行っているベンチャー企業のオプティム。創業は平成12年（2000年）、佐賀大学在学中に菅谷社長が立ち上げました。「コンセプトとして“ネットを空気に変える”を掲げ、インターネットそのものを空気のように、全く意識することなく使いこなせる存在に変えていくことを目指しています。これから第４次産業革命が全ての産業を、企業を一変させると考えていて、創業以来全ての人々が等しくインターネットのもたらす、創造性・利便性を享受できるようサポートできるプロダクトの開発に尽力しております」と細見リーダー。AI、IoTを活用したサービスは多岐にわたり、農業、医療、建築などさまざまな分野でサービスを提供しています。

世界一AIを実用化する

「菅谷が佐賀大学の農学部出身だということもありますが、農業はAIやIoTで変わる度合いが大きく、イノベーションができると考えました」と細見リーダー。特に佐賀では、“楽しく、かっこよく、稼げる農業”を目指すために、ドローンやAIを駆使し、病虫害を検知した箇所だけにピンポイントで農薬をまけるピンポイント農薬散布テクノロジーや、生育状況の解析サービスなど農業でAIを活用し、生産性の向上と効率化に寄与しています。また、医療の分野で佐賀大学医学部と連携し、医療画像診断支援AIの共同研究ならびに臨床研究を推進する取組や、佐賀銀行と連携して振り込め詐欺を検知するシステムの実証実験などのほか、九州電力、川崎重工、コマツなどと協定を結んでいろいろな分野に取り組んでいます。

「ソフトウエア会社でありながら米を作る、医療分野のAI、IoTソリューションを提供する。そのために、世界を一変させるイノベーションのヒントは、他産業とタッグを組むことで生まれていくと考えています。その中で、佐賀でいち早くAIを生活の中に実用化していきたい。佐賀を発信源にして日本中に普及させ、AIを世界一実用化することでイノベーションを起こしていきたいですね」と細見リーダー。GoogleやAppleに負けない世界を驚かせるサービスをオプティムは佐賀から目指していきます。

※1 AI：人工知能のこと
※2 IoT：モノのインターネット。あらゆるモノをインターネットに接続すること

佐賀本店 リーダー
細見（ほそみ） 純（じゅん）

さまざまな用途にカスタマイズされたドローン

株式会社オプティム
☎ 0952-41-4277
[所]佐賀市本庄町1　オプティム・ヘッドクォータービル
[代表者]代表取締役社長　菅谷　俊二（すがや しゅんじ）
[創業]平成12年（2000年）
[従業員]229名
[HP] https://www.optim.co.jp/　オプティム　検索

ここがポイント！

高解像度カメラ搭載ドローンで空撮後、AIで解析して病虫害の発生場所を特定。該当箇所に必要な量だけ農薬を散布する“ピンポイント農薬散布”が令和元年（2019年）九州地方発明表彰の文部科学大臣賞を受賞。世界的にも注目を集め始め、世界のテクノロジーのトレンドとしても注目されています。

02
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

株式会社 唐津プレシジョン

110年の歴史を刻む 世界的工作機械メーカー

“精密な”機械を作り続ける

私たちの生活を支える発電機や自動車といったさまざまな機械。それらの製造過程で活躍するのが“機械を作る機械”である工作機械です。唐津プレシジョンは、110年にわたり、唐津の地で工作機械を作り続けてきました。

「“プレシジョン”は英語で“精密な”という意味なんです。以前の社名である唐津鐵工所では、製鉄の会社などと思われることも多かったため、“精密な機械を作る”という使命を表す意味もあり、当社の創業100周年を機に社名変更を行いました」と竹尾社長。

戦前は国内5大メーカーに数えられ、戦艦大和の主砲の製作にも一役買った同社は、現在も主に大型の旋盤や歯車加工機などの工作機械メーカーとして知られています。

「世界と勝負できているのは大型・精密に特化してきたからこそ」と竹尾社長。1台数千万円から時には数億円にもなるフルオーダーの高額製品に求められるのは、何より“品質”です。110年をかけて培ってきた“KARATS”ブランドは、国内外で高く評価されています。

とことん考え抜くものづくり

ほぼ毎朝現場に出掛け、社員への声掛けと敷地内のゴミ拾いをしているという竹尾社長。「製造業は現場にさまざまなヒントが落ちています」との言葉通り、そこから新たな製品につながることも多いそうです。

社員との対話を大切にしており、「最終的に全ては“人”」と竹尾社長は言い切ります。同社は150名に満たない社員数ですが、一騎当千の少数精鋭主義で、生え抜きの職人も多く、定年後の再雇用も盛んです。

竹尾社長の口癖は「とことん考えよう」。細部に及ぶ“こだわりのものづくり”の精神は、社員の一人一人に浸透しており、性能・精度・使い良さの全ての面において、お客さまの要求に100%応えられるよう、現在ではミクロン単位での精度の追求を行い、産業用ロボット等の精密加工機械の世界でもその力を発揮。創業の理念である“用うるに利有るをつくり売るに利有るものを追わず”の精神で、工作機械の未来を開き続けています。

代表取締役社長
竹尾（たけお） 啓助（けいすけ）

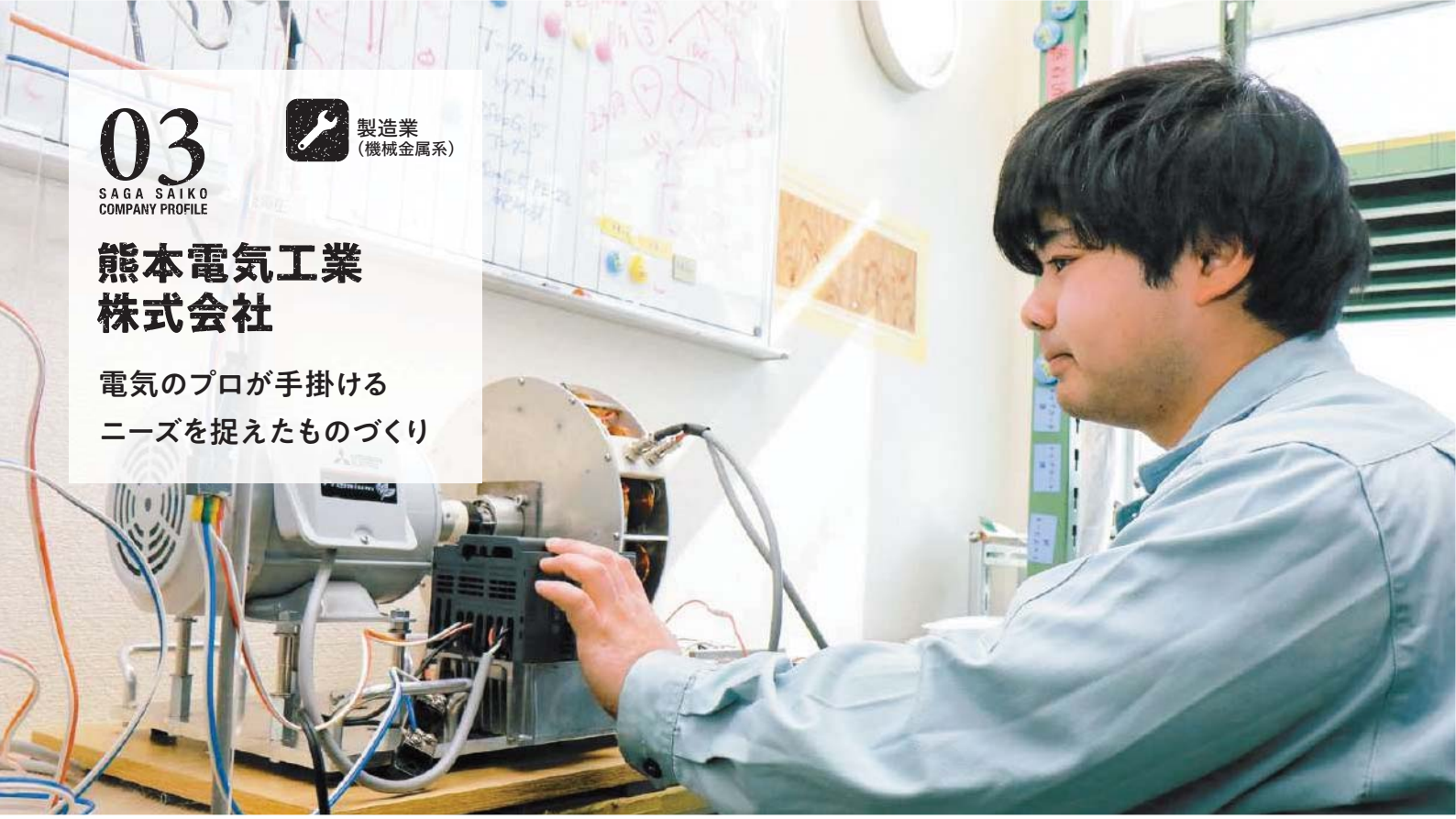
大型・超大型軸物を
高精度に加工する
大型旋盤

株式会社唐津プレシジョン

☎ 0955-72-1111
[所]唐津市二タ子3-12-41
[創業]明治42年（1909年）
[従業員]133名
[HP] http://www.karats.co.jp/ 唐津プレシジョン 検索

ここがポイント！

耐用年数は30年以上という“KARATS”の工作機械。「海外での納品を終えた帰り際、1本のネジを締めに戻った職人もいます。おかげで10年間ノートラブルです」と竹尾社長。正確で精密な独自の技術とともに“そこまでやるのか”というほどの職人魂がブランドを支えています。



03
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

熊本電気工業株式会社

電気のプロが手掛ける ニーズを捉えたものづくり

“諦めない”ものづくり

昭和46年（1971年）に電気工事を行う企業として創業した熊本電気工業は、電気工事だけではなく、“シャインブライト”に代表されるさまざまな特許商品の製造販売も行っている企業です。

「ものづくりを行う上で特許を取ることも大事だと思うのですが、常にお客さまが何を求めているかを捉えることがより大切です。そこに必ずヒントがあります」と熊本社長。高い省エネ効果を発揮するリフレクターに、長寿命の無電極ランプを組み合わせた照明の“シャインブライト”は、もともとは工場の電灯の数を減らした上で、広範囲を明るくしたいというお客さまの要望から生まれた商品です。その後、特許を取得し、平成23年（2011年）には省エネ大賞、平成24年（2012年）には日本機械工業連合会会長賞を受賞しました。熊本社長は「重要なのは、企業が何を作り出せばいいのかを見つけ出し、作り上げることだと思います」と話します。

さまざまな商品を開発している同社ですが、その過程ではいくつもの失敗を重ねてきました。そこから生まれるものづくりの基本精神は、“諦めないこと”です。社員全員に諦めない精神が浸透しています。

人に喜ばれるものづくり

「シャインブライトをあるお客さまに納めた時に、受注していただき感謝していることを伝えると、お客さまは『これはお金が喜んでいるんですよ』とおっしゃいました。とても感動しましたし、勇気もいただきました。商品の価値は人に喜んでもらうことで上がると思います」と熊本社長。今後は、新たに商品化したスポットエアコンなどの商品の認知度を上げていき、お客さまにより高い付加価値の提案を行っていきます。

「自分たちが何を作ればお客さまに支持されるのかを見つけ出すことが、どこの企業にも求められていると思います。ものづくりに決まったルールはありません。ゼロから作ることがものづくりなんです。だから面白いんですよ」と、熊本社長のアイデアを中心に、熊本電気工業は社会の課題を解決していきます。

代表取締役社長
熊本（くまもと） 元信（もとのぶ）

省エネ効率がさらに増した
シャインブライトLED照明

熊本電気工業株式会社
☎ 0952-53-1088
[所]神埼市神埼町尾崎3274-1
[創業]昭和46年（1971年）
[従業員]11名
[HP] https://www.kumamotodk.co.jp/ 熊本電気工業 検索

ここがポイント！

熊本電気工業の商品開発は多種多様。特許を取った“シャインブライト”をはじめ、スポットエアコンなどの商品を作っています。中でもスポットエアコンは令和元年（2019年）12月に、佐賀県でトライアル発注製品に選定され、塩田工業高校に納入。また、工場などの環境改善にも寄与しています。

04
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

小糸九州株式会社

“安全を光に託して”

佐賀から光の革新を

KOITOグループは、大正4年（1915年）の創業以来、自動車、鉄道、さらには航空機や船舶などに使用されるあらゆる照明機器のサプライヤーとして、世界五極（日本、北米、欧州、中国、アジア）のグローバルネットワークにより世界中のお客さまに製品・サービスを提供しています。また、世界で初めて実用化したLEDヘッドランプなど、安全や環境に配慮した新技術や新製品の開発にも積極的に取り組んでいます。

小糸九州はKOITOグループの九州生産拠点として、平成17年（2005年）に佐賀市久保泉工業団地に誕生しました。以来自動車用照明機器分野において西日本地域の自動車産業の一翼を担っており、自動車用照明機器のリーディングカンパニーとして、佐賀から光の革新をし続けています。

安全と高品質の両立

自動車用ヘッドランプは、前方視認性の確保とともに高いデザイン性が要求される自動車部品です。安全・環境に寄与するLED・ADB※のさらなる普及により、ランプ自体も高機能、高意匠化し、複雑化が進展しています。

また、標識灯は、後続車への迅速な意思伝達を可能にすることで安全性に寄与しており、デザイン的には長尺化が進んでいます。

このような急速な技術革新に対応した高品質の製品を早期に市場へ投入するため、KOITOグループは、先進技術の開発をスピードアップさせています。その中で特に重要となるのが、生産体制・品質保証体制の強化（現場力強化）であり、全社を挙げたルールの遵守、徹底した横展開、さらには社員一人一人の品質意識の向上を図ることで、お客さまに安全・安心、高品質の製品をお届けしています。

最適な光を作り出すため、光源・配光制御部品を開発から生産まで一貫して行うトータルサプライヤーの小糸九州。ランプに必要な全てのものを、生産・技術部門が連携を図り、新技術や新工法を織り込みながら作ることで、お客さまの要望に応えられる“ものづくり”を追求しています。

※ADB：配光可変ヘッドランプのこと

代表取締役社長
瀧川（たきかわ）　修巳（おさみ）

最新技術が投入された
LEDランプ

小糸九州株式会社
☎ 0952-71-8355
[所]佐賀市久保泉町上和泉1580-6
[創業]平成17年（2005年）
[従業員]1,246名
[HP] http://www.koito-kyushu.co.jp/　小糸九州　検索

ここがポイント！

小糸九州には、科学技術分野の文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞を受賞した技術者が多く、平成30年（2018年）には4名、その翌年には2名と2年連続で受賞を果たしています。これらの高い技術がランプ作りに生かされています。

05
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

株式会社 佐賀鉄工所

完全一貫生産システムで高品質のボルトを提供

ボルトの専門技術者集団

昭和13年（1938年）に創業した佐賀鉄工所は、昭和20年代から自動車、農業機械に使用されるボルトの提供に特化し、現在は自動車用ボルトのトップメーカーです。佐賀工場をはじめ国内外8カ所に製造拠点を持ち、月に1万種類以上、数億本に及ぶボルトを生産。「材料の加工から成形、ねじ転造、熱処理、表面処理など、全ての工程を自社内で確実に管理する“一貫生産方式”を採用しています」と中島工場長。業界でも数少ない生産体制で、各工程の徹底した品質管理が高品質・高機能のボルト製造を可能にしています。

その中でも主要製品とされているのが高強度ボルトです。自動車の心臓部と言えるエンジン部分に使用するため、高いスペックが要求されます。日本では、製造できるメーカーが数社に限られ、高強度ボルトを製造できるかどうかが、ボルトメーカーの技術力を計る尺度とも言われています。

企業ブランドの立ち上げ

創業80周年を迎えた平成30年（2018年）には、コーポレートブランドの“DEXTECH（デクステック）”を立ち上げ。同社が初めて海外進出をして大きな転換点になった、アメリカの子会社の社名が由来で、「地元では“佐賀鉄工所”という名称が親しまれていますが、業務内容がイメージしにくく、特に海外では分かりにくいようです」と中島工場長。ブランド立ち上げは、自社の強みをさらに磨き上げ、国内外でお客さまに安心していただける確かな製品と未来を切り開く締結技術を提供し続ける礎と言えるでしょう。

同社の強みは、単に設計図通りのボルトを作るのではなく、仕様に応じた最適な締結技術を提供できることです。締め付けにバラつきがなく、一定の力で締結ができているかを分析・評価するための部門もあり、日々、研究開発に取り組んでいます。まさに、小さなボルトで支える大きな未来。ガソリンから電気へと自動車は進化し、時代が求めるボルトが変化したとしても、業界屈指のものづくり力で産業社会の発展に貢献し続けていきます。

佐賀工場長
なかしま　なおき
中島　直樹

デクステックブランドの
高強度エンジンボルト

株式会社佐賀鉄工所
☎ 0952-31-2111
[所]佐賀市神園1-5-30
[代表者]代表取締役社長　坂田　潤一（さかた　じゅんいち）
[創業]昭和13年（1938年）
[従業員]803名（国内）
[HP] https://www.dextech.co.jp/　佐賀鉄工所　検索

ここがポイント！

毎月、数億本も生産するボルト一本一本に責任を持つため、全数検査ラインで異品混入や形状不良をチェック。あらゆる角度から徹底的に行う品質管理は、“一本も不良品を出さない”という強い決意の表れです。厳しい検査を合格したボルトだけが世界中の車で使用されています。

06
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

株式会社 SUMCO

技術で世界を牽引する シリコンウェーハメーカー

佐賀から世界へ

パソコンやスマートフォン、デジタル家電等の電子機器、自動車や医療機器、産業用機械の制御装置のみならず、交通機関や公共インフラの制御に至るまで幅広く私たちの生活を支えている半導体デバイス。

ＳＵＭＣＯでは、半導体デバイスの大切な基板材料となっているシリコンウェーハを作っています。シリコンウェーハは、直接目に触れることはなくとも、現在の私たちの生活に欠かせないものとなっています。

そのシリコンウェーハを世界を相手に供給する製造拠点が伊万里市と江北町にあります。

東京に本社を置く同社は、平成11年（1999年）に住友金属、三菱マテリアル、三菱マテリアルシリコンの共同出資で設立されました。

「シリコンウェーハの製造に欠かせない潤沢な水や電気、優秀な人材が豊富なこの佐賀の地が、行政や地域のさまざまな支援もあり、当社の一大製造拠点として発展してきました。佐賀県には昭和48年（1973年）に住友金属と大阪チタニウム製造の共同出資により九州電子金属を設立、2年後に工場が稼動を開始しました。徐々に規模を拡大し、現在佐賀県（九州事業所）には3,000名ほどの社員が働いています。実は県内では最も従業員の多い会社なんです」と平本副社長。

世界最高品質を支える誇り

「シリコンウェーハは、徹底的にクリーンな環境で製造しますが、実際の製造現場は自動化が進み、人はほとんど現場に入らず、主に設備やデータの監視を行っています。そのため“ものづくり”の実感は薄いかもしれませんが、お客さまからは高品質の製品を求められ、少しのトラブルがあっという間に不良品の山につながるため、人が行う作業も手は抜けない」とのこと。

現場のモチベーション強化のため、歩留りや生産性を上げる提案の発表会も全社で行っており、報奨金も用意しています。離職率は極めて低く、佐賀県では初の事業所内認可保育園を設置するなど、福利厚生にも力を入れています。

「改善・改良の積み重ねが生んだノウハウで、繊細なロジック半導体の使用に耐え得る世界最高品質のウェーハを作り出しています」と語る平本副社長からは、製品への絶対的な自信と人々の生活を根底で支えているという誇りが伝わります。技術で世界一を目指し、ＳＵＭＣＯは挑み続けます。

SUMCOが製造する
シリコンウェーハの技術は
世界トップレベル

代表取締役副社長
生産本部長 九州事業所長
ひらもと　かずお
平本　一男

株式会社SUMCO
☎ 0955-22-7015
[所]伊万里市東山代町長浜826-1
[代表者]代表取締役会長兼CEO　橋本　眞幸（はしもと　まゆき）
[設立]平成11年（1999年）
[従業員]8,017名（グループ会社含む）
[HP] https://www.sumcosi.com/　SUMCO　検索

ここがポイント！

ＳＵＭＣＯのシリコンウェーハの世界シェアはなんと3割。その品質は、主要な取引先であるSamsungやIntelなど世界トップの半導体企業からの折り紙付きです。同社のシリコンウェーハは、あらゆる技術革新の礎となっていますが、私たちの未来の生活をさらに便利なものにするために、同社は今日も研究と開発に励んでいます。

07
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

田口電機工業株式会社

ハイテク技術を支える“めっきのデパート”

表面処理のエキスパート

電気めっき、合金めっき、無電解めっき、複合めっき、研磨加工など表面処理全般の加工を行う田口電機工業。50以上のめっきの品種を取り扱うことで、“めっきのデパート”とも称されています。

「めっきは、ものづくりに欠かせない加工技術。鉄や銅などの材料にめっきを施すことで、サビ防止や耐久性、電気伝導性や装飾性などさまざまな機能を持たせることができます」と田口社長。

顧客からの多種多様なオーダーに応えられる高精度の加工技術が評価され、取引先は半導体・液晶製造装置をはじめとするIT関連、ロボット産業、自動車や医療機器の分野など約1,700社に及びます。「他社では“できません”と断られたようなものでも、“やってみましょう”とチャレンジするのが我が社のモットーです」。その高い技術力を裏付けるように、平成27年（2015年）にはパワー半導体基板への精密めっき加工の量産をスタート。さまざまな産業機器に活用されるパワー半導体は急成長の市場で、同社では主に電気自動車、ハイブリット自動車のモーターを制御する半導体部品の加工を手掛けています。

ナノテク分野の微細加工

めっき加工の技術を磨き続けるため、研究開発にも積極的で、特に注目すべきはナノテクノロジーの分野。佐賀県立九州シンクロトロン光研究センターにおいて、シンクロトロン光によるX線照射で微細加工技術の研究開発を行っています。例えば、世界最小といわれる直径0.1ミリの歯車は同社の技術でしか作れないナノ部品。国内外のナノテク関連の展示会でも注目度は高く、最先端の医療分野で活用されることが期待されつつ、実用化は5～10年先のこと。

「我が社だけのオンリーワンの技術ですが、実際に使える市場はまだありません。けれど、未来のナノテク分野に必ず生かされる技術だと確信しています。目指すは、世界初のマイクロマシンメーカーです」と田口社長。ナノテクノロジーの最先端技術を佐賀から世界へ。未来を見据えた大きなチャレンジはこれからも続きます。

代表取締役社長
田口（たぐち） 英信（ひでのぶ）

直径0.1ミリの超微小歯車

田口電機工業株式会社
☎ 0942-92-2811
[所]三養基郡基山町小倉399
[創業]昭和27年（1952年）
[従業員]75名
[HP] http://www.taguchi-dk.co.jp/ 田口電機工業 検索

ここがポイント！

経済産業省の支援を受け、平成19年（2007年）からシンクロトン光X線による微細めっき技術の研究開発をスタートさせ、最先端のナノテク加工技術を確立。医療機器メーカーをターゲットに、手術器具や医療用ロボット向けのマイクロパーツやマイクロマシンの製品化、市場化に取り組みます。

08
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（化学系）

株式会社炭化（たんか）

独自の鮮度保持剤を開発
世界の食品ロス低減へ

青果物の鮮度保持剤を開発

私たちの食生活に不可欠な青果物は、出荷された多くが貯蔵、輸送、販売などの過程で傷み、国内では約45％という高い割合で廃棄されています。炭化は、この食品ロスの低減に寄与する鮮度保持剤“Tanka fresh.®”を開発。日本および海外でも特許を取得し、青果物の物流分野を中心にグローバルに展開しています。原料は、放置竹林の竹を500～700度で炭化し、10ミクロン以下に粉砕した微粉竹炭と嬉野の三番茶のカテキン成分を混合、ゲル化し乾燥させたもの。エチレンやアンモニアなどの発生ガス類を吸着し、呼吸する青果物のCO_2を一定に保ちます。捨てられるはずだった素材を活用した天然由来で安全性の高い製品です。

また、佐賀県の特許である酸化チタンによる“光触媒”を活用した鮮度保持システム“Tanka fresh.UV”も開発。例えば、日本から韓国、中国を経由して台湾へ運ばれる混載の定期便では、通常5日ほどで劣化が始まるイチゴも、このシステムを使えば28日経った後も新鮮さを保つことができます。これにより船やトラックでの運送も可能となり、コスト削減にもつながります。

ベンチャー企業として成長

入江社長は、建設会社を定年退職した後、それまでの経験とは別の分野で起業しました。「竹は森林の浅いところに根を張るため、山に水分が浸透せずミネラル分の乏しい水が森から川、そして海へと運ばれます。里山の整備のために放置竹林の竹炭を利用したビジネスを考えました」と入江社長。事業を模索し、社会の課題と向き合いながら行き着いたところが佐賀県茶業試験場でした。他機関の協力も得て、竹炭と茶葉を組み合わせた鮮度保持剤の発明が実現したのです。

現在は花の鮮度保持も含め東南アジアや中国などに展開するほか、大手運送会社との連携による事業も進めています。カテキンなど茶成分の応用も視野に、成長途上の市場へと精力的にアプローチし、シェアを拡大。社会貢献とともに人々の豊かさの向上を目指します。

代表取締役社長
入江（いりえ）　康雄（やすお）

青果物の鮮度保持剤
“Tanka fresh.®”

株式会社炭化
☎ 0952-51-8811
[所]佐賀市富士町古湯2655-3
[創業]平成24年（2012年）
[従業員]11名
[HP] https://tanka-eco.info/　株式会社炭化　検索

ここがポイント！

放置竹林の竹炭と嬉野茶のカテキンを活用した鮮度保持剤および空間鮮度保持システムを開発し、日米で特許を取得。主に青果物の鮮度を長期間保持でき、国内や海外の物流においてシェアを広げています。捨てられるはずの素材から高付加価値を生み出し、九州未来アワードをはじめ受賞歴も多数。

09
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

東亜工機株式会社

世界の海を支える
高精度な船舶用エンジン部品

世界トップシェアの製品

第二次世界大戦中の昭和19年（1944年）、酒蔵に鋳造設備を持ち込み、艦船用の部品生産工場として創業した東亜工機。

大型タンカーやコンテナ船などの船舶用ディーゼルエンジンに使われるシリンダライナと呼ばれる筒状の部品を製造しています。

大型船舶を動かすための巨大なエンジンの爆発力を受け止める耐久性と滑らかなピストン運動を維持しながらも磨耗しない強さ。そして潮風でも腐食しない製品が特長です。

「人の命と商品を預かる部品ですので、多くの職人の手で大切に作っています。品質と納期にこだわり、実際に世界を運航する船に当社の製品を使っていただき、腐食の追跡調査を行って開発を進めました。その結果、機関長から耐摩耗性を評価いただき、世界中を走る船で使っていただいています」と光武社長。

幾度となく襲いかかる経済不況を乗り越え、現在、大型シリンダライナの製造ではシェア世界一の地位を確立しました。

高度な技能を若手へ伝承

シリンダライナの製造には、高度な鋳造、機械加工、そして手仕上げ技術が必要。その技を磨く場所が、平成23年（2011年）に開設した技能習得道場“錬磨”で、現代の名工に選ばれたトップクラスの技術者が若手を指導しています。技能資格の取得も積極的に推奨し、現場で働く約220名の社員のうち100名以上が鋳造、機械加工、仕上げなど、さまざまな分野で難易度の高い1級の資格を取得。

また、製造現場では女性の活躍もめざましく、女性が働きやすい職場環境も整っています。

「ロボット化や自動化も進めていますが、ものづくりの原点は作業者一人一人の技能にかかっています。訓練を通して身に付けた五感で感じる力が高い次元の仕事につながります」と光武社長。

新たな主力製品の開発にも積極的に取り組んでおり、その一つが発電用天然ガスエンジン向けのシリンダライナです。複雑な設計も高度な技術で再現し、世界的なメーカーからの受注も受けています。

今後も熟練の鋳造技術を生かし、高精度な製品づくりに邁進していきます。

代表取締役社長
光武（みつたけ） 渉（わたる）

巨大なシリンダライナ

東亜工機株式会社
☎ 0954-63-3236
[所]鹿島市大字山浦丁1430-30
[創業]昭和19年（1944年）
[従業員]309名
[HP] https://toakoki.co.jp/ 東亜工機 検索

ここがポイント！

内径600ミリメートル以上の大型部品では国内で7割超、海外で3割超のシェアを誇る東亜工機のシリンダライナ。高い強度と精度に寄せられる信頼は厚く、メーカーは届いた製品をそのままエンジンに組み込めるほど。不良品を出さない確かな技術が、海上の安全を支えています。

10
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

株式会社 中村電機製作所

防爆制御機器の国内トップメーカー

70年以上培った防爆技術

創業70年以上の実績と技術力を活かし、防爆業界の中でも老舗メーカーとして知られる中村電機製作所。「“防爆”は聞き慣れない言葉かもしれませんが、石油や天然ガスを扱う大型プラントなど、危険場所で使う電気機器に爆発や引火を防ぐ手段を施すことです」と中村社長。引火性の強いガスが存在する場所では、スイッチを入れたときのわずかな電気火花や静電気で爆発が起こる可能性があるため、防爆機器の使用が法律で義務付けられています。

創業は鉱山用電気機器の修理サービスからのスタートで、石炭産業衰退後は工場用電気機器の防爆化に取り組み、現在は防爆制御機器等を製造・販売しています。近年は、IT機器や通信機器のニーズが高く、防爆パソコンシステムや防爆タッチパネルなどを開発。新エネルギーとして期待される水素の炎を検知する耐圧防爆型の紫外線炎検知器も製品化しています。

グローバルニッチトップ企業

防爆の手法は主に3種類あり、頑丈な箱で電気機器を被う「耐圧防爆」、内部と外部の圧力差で箱内への危険ガスの侵入を防ぐ「内圧防爆」、着火源にならないようにシステムを構成する「本質安全防爆」です。「その中でも一番難しいのが本質安全防爆。経験の積み重ねがあってこそ確立できる技術で、我が社がナンバーワンだと自負しています」と中村社長。

時代とともに求められる防爆製品は多様化し、年間100台売れればヒット商品といわれる世界。高い技術力はもちろんのこと、大手企業ではまねできない多品種少量生産で顧客のニーズに細かく対応し、国内有数の大きさを誇る爆発試験設備を備えていることも同社の強みと言えます。

同業・競合企業が全国で数社というニッチな産業だからこそ、国内シェアのさらなる拡大に努めるだけでなく、海外市場も視野に入れています。すでに世界20カ国以上に製品を納入し、各国の異なる規格に対応できるようイタリアの防爆メーカーと業務を提携。業界をリードする防爆技術で、グローバルニッチトップ企業を目指しています。

代表取締役社長
中村（なかむら） 直紀（なおき）

高品質の防爆装置

株式会社中村電機製作所
☎ 0952-30-8141
[所]佐賀市高木瀬西6-4-7
[創業]昭和21年（1946年）
[従業員]72名
[HP] http://www.ex-nakamura.co.jp/ 中村電機製作所 検索

ここがポイント！

国内トップレベルの技術力と開発力で、業界内では“防爆のナカムラ”として社名が浸透。IoT※化が進展する現代に合わせ、パソコンや通信機器などIoT関連の防爆製品も手掛けています。あらゆるニーズに応える開発力で、製品の幅を広げています。

※IoT：モノのインターネット。あらゆるモノをインターネットに接続すること

11
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

株式会社 中山鉄工所

現場の声から生み出す破砕機メーカー

革新的な破砕機を開発

明治41年（1908年）に創業し、100年以上にわたって破砕・選別機を作り続けてきた中山鉄工所。国内外の採石場やトンネルなどの建設現場で、同社の破砕機が活躍しています。

石を砕いてその大きさごとに選別するという作業を一貫して行う破砕機や、各現場に応じたプラントを作る同社。納めた機械のメンテナンスにも手厚く対応しています。

同社の主力製品は、電動駆動で稼働する破砕機“Dendoman（デンドマン）”です。これまで主流だった大きな力を発揮できる油圧ポンプ式の破砕機に、同社で開発したエンジンで発電するシステムを搭載。電気のみで駆動する技術によってエネルギー効率を上げることに成功し、お客さまに好評を得ています。

ただ単に機械を作るだけではなく、お客さまの現場の状況・要望に合わせて機械の組み合わせやアフターフォローまで考えた提案も同社の強み。「お客さまからの声を参考にしながら機械の改良・製造を行っています。開発のニーズは現場にあると考えています」と中山社長は話します。

現場の声を生かしたものづくり

IoT※技術を活用し、全国各地で稼働している同社の機械を通信機能によってリアルタイムで監視できるシステムを開発した同社。機械の稼働状況、機械負荷の状況、異常値など現地の状況を把握し、故障や異常が発生した場合には、いち早くサポートやメンテナンスの対応ができるようになりました。「これまでお客さまからの連絡がなければ機械のトラブルを把握できませんでしたが、この技術によってお客さまの作業停止時間の短縮を可能にしました」と中山社長。

さらに、バッテリーのみで稼働する破砕機や環境に配慮した破砕機の開発も行うほか、小水力発電などの新たな分野にも挑戦し、海外の電気の通っていない地区への技術の提供も視野に入れています。中山鉄工所はよりいっそう技術向上への努力を重ね、お客さまとのつながりを深めることで、長く続く企業を目指します。

※IoT：モノのインターネット。あらゆるモノをインターネットに接続すること

代表取締役社長
中山（なかやま）　弘志（ひろし）

世界初となるバッテリ駆動
破砕機“デンドマン”

株式会社中山鉄工所
☎ 0954-22-4171
[所]武雄市朝日町甘久2246-1
[創業]明治41年（1908年）
[従業員]120名
[HP] https://www.ncjpn.com/　中山鉄工所　検索

ここがポイント！

中山鉄工所には、インドやインドネシアなどから来る技能実習生も数多くいます。“自国に帰っても弊社の技術や思いを持って活躍してほしい。そこに海外への人脈も生まれる”という中山社長の思いから、多様な経験を積んだ外国人技術者を育成しています。

12
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

株式会社 名村造船所

伊万里から世界へ チーム名村で存在感を示す

チーム名村のものづくり

バルクキャリアーと呼ばれる大型の貨物船をはじめ、タンカーなど大型の商船を製造する新造船事業を中心にしながら船舶修繕事業や鉄橋を造る鉄構事業を展開している国内屈指の造船メーカー名村造船所。明治44年（1911年）に大阪の造船業として創業、昭和49年（1974年）には戦後の高度成長期で大型の貨物船の需要増に伴い、造船に好適地である伊万里へ工場進出しました。現在では同社の全ての船を伊万里工場で製造しています。

同社の強みはものづくりを支える高い技術力とチーム力。1隻あたり何万点にも及ぶ部品一つ一つに職人の技術力が求められます。開発から製造に至るまで“お客さまが真に求めるものを提供し続ける”という思いで“チーム名村”として、ものづくりを行っています。近年では、燃費性能が良く長い距離を航行できる環境に優しい船や、天然ガスなどの代替エネルギーで動く船など、お客さまからのさまざまな要望に柔軟に応えるものづくりを行っています。その中で開発したのが、船舶の推進性能を向上させるために船尾につける特殊なフィンで、同社独自の技術として特許を取得しています。

より技術を高みへ

船造りは答えがないから難しいと言われています。“これが正解”ということがないからこそより高い技術を磨かないといけません。人づくりにおいては、大学と連携し、スタッフに博士号を取得させる社内制度など、スタッフの自己研鑽と部門ごとに調査研究を行い課題解決を進める取組を行っています。

お客さまからの多様なニーズに柔軟に対応するために、平成31年（2019年）4月からは技術開発センターを設置。他社に負けない性能や新技術などの開発を行うことで、さらなる造船技術の向上を図り、挑戦し続けることにより、“名村じゃないといけない”とお客さまから求められる企業であり続けるべく、名村造船所は存在感を示し続けます。

代表取締役社長
名村（なむら） 建介（けんすけ）

25万トンの鉄鋼石を
運べる船“WOZMAX”

株式会社名村造船所
☎ 0955-27-1121
[所]伊万里市黒川町塩屋5-1
[創業]明治44年（1911年）
[従業員]1,094名
[HP] https://www.namura.co.jp/ 名村造船所 検索

ここがポイント！

名村造船所では、造船技術を生かして鉄構事業にも取り組んでおり、社会に大きく貢献しています。主に、橋梁や沿岸施設などの鉄構造物を商品化しており、造った橋は六角川大橋や新門司可動橋など数多く、九州でトップクラスの実績を誇ります。

13
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

株式会社 西村鐵工所

未知の分野にも 独自の技術で果敢に挑戦

創造と挑戦の機械メーカー

大正9年（1920年）に創業し、今年で創業100周年を迎える西村鐵工所は、農業用ポンプや土木用ポンプ、砕石プラントの製造に始まり、現在では産業用乾燥機とバケットコンベヤを製造しています。西村代表は「社名だけ聞くと小さな町工場をイメージされるかもしれませんが、下請け業務は請け負わず、独自の技術で独自の製品をゼロから作って形にする機械メーカーです」と話します。

日本経済の発展とともに、時代に求められる製品を生み出してきましたが、そのきっかけは技術者でもあった先代社長の“面白そうだからとりあえず作ってみよう”という直感的なひらめきでした。思いついたアイデアを形にするため試作を繰り返し、未知の分野にも果敢に挑戦。「たとえ失敗してもそこから改善点を見出し、次の製品開発につなげていきました」と西村代表。既成概念にとらわれない“創造と挑戦”こそが、ものづくりに欠かせない精神であり、その精神は社員一人一人に今も息づいています。

他社にない製品を開発

事業の主力は、産業廃液を乾燥させて処理する“CDドライヤー”と粉粒体を垂直に搬送するバケットエレベーター“I-Bコンベヤ”の製造です。昭和40年代に開発されたI-Bコンベヤは、垂直輸送の常識を変える独自の構造が高く評価され、昭和53年（1978年）には発明大賞特別賞を、平成4年（1992年）には科学技術庁長官賞など数々の賞を受賞しました。

CDドライヤーが開発されたのは、多くの企業が環境保全活動に取り組み始めた時代で、廃液処理のコストを削減できる製品に産業界が注目。その用途は時代とともに拡大し、今では電子部品や食材の乾燥などにも使われています。顧客ニーズに合わせてカスタマイズされた製品は、国内外を問わず取引され、海外輸出実績も10カ国以上。韓国やドイツでは現地企業と提携し、海外市場の開拓を進めています。常にチャレンジ精神を持ち続け、他社にはまねできない技術力と開発力で、世の中から必要とされるものづくりにこれからも取り組んでいきます。

代表取締役
西村（にしむら） 明浩（あきひろ）

高性能・高効率を実現した
CDドライヤー

株式会社西村鐵工所
☎ 0952-66-0001
[所]小城市牛津町柿樋瀬286-4
[創業]大正9年（1920年）
[従業員]57名
[HP] http://www.nisitec.co.jp/ 西村鐵工所 検索

ここがポイント！

昭和62年（1987年）に完成した“CD（コンパクト・ディスク）ドライヤー”は、産業廃液などを高熱の円盤に当てて蒸発させ、乾燥処理する仕組みで、発売以来500台以上を売るロングセラー製品。主要部品のみを輸出し、アフターサービスを現地企業に任せる戦略で海外展開も進めています。

14
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（コスメ系）

久光製薬株式会社

貼付剤による治療文化を世界中の人々に伝えたい

貼って手当てする治療文化

弘化4年（1847年）に創業した配置売薬業を原点に鎮痛消炎貼付剤を中心とした医薬品を提供する久光製薬。代表商品である“サロンパス®”は、世界100カ国以上で商標登録され、今では世界共通語にもなっています。「大切な人に手を添え、心を込めて癒す“手当て”のように、貼って手当てする貼付剤は、世界に誇れる日本の治療文化です。その良さや感動を世界中の人にお伝えしたい」と髙尾取締役BU本部長。今でこそ世界的に認知された“サロンパス®”ですが、昭和9年（1934年）の発売当時は、商品の良さを一人でも多くのお客さまに知ってもらおうと実物宣伝を実施。いわゆる試供品を配布する手法※で、営業マンは名刺代わりに配って回り、当時の社長が銭湯に出向いて風呂上がりのお客さまに貼って回ったというエピソードもあります。

創業当時から変わらないのは、お客さま第一主義であること。お客さまの声を反映しながら貼りやすさや肌への優しさを追求し、さまざまな商品改良を重ねてきました。“今まで以上により快適に使えるように”という、お客さまへの思いがものづくりの原動力になっています。

スポーツの振興に貢献

同社は医薬品の提供を通した人々の健康づくりだけでなく、文化・芸術の振興やスポーツ支援にも取り組み、企業市民として地域社会との関わりを深めています。創部70年を超える女子バレーボールチームは、久光製薬スプリングス®としてV.LEAGUEに所属し、数々の栄冠を獲得。平成29年（2017年）には佐賀県と連携協定を結び、バレーボール教室を定期的に開くなど地域の活性化にも積極的に関わっています。

東京2020オリンピック・パラリンピックでは、多くのトップ企業が名を連ねるオフィシャルパートナーの一員として大会をサポート。オリンピックという一大イベントをきっかけに、貼って手当てする治療文化を世界中の人に体験してもらい、未来に向かって貼り薬の新しい価値を生み出していきます。

※現在は薬機法により薬局・薬店以外での医薬品の試供品は配布しておりません

取締役BU本部長
髙尾（たかお）　信一郎（しんいちろう）

本社内にある“実物宣伝”を体験できる薬店

久光製薬株式会社
☎ 0942-83-2101
[所]鳥栖市田代大官町408
[代表者]代表取締役社長　中冨　一榮（なかとみ　かずひで）
[創業]弘化4年（1847年）
[従業員]1,600名
[HP] https://www.hisamitsu.co.jp/　久光製薬　検索

ここがポイント！

日本における鎮痛消炎貼付剤のリーディングカンパニーで、代表商品の“サロンパス®”は約40カ国に輸出。ブランド力の強化と知的財産保護にも積極的に取り組み、CMで使用されている“ヒサミツ♪”のメロディーとロゴの動きは、日本で初めて新しいタイプの商標として登録されました。

15
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（食品系）

富久千代酒造有限会社

米本来の味を大切に
地元に誇れる酒造り

“鍋島”誕生のきっかけ

大正末期に創業し、“泉錦”や“富久千代”銘柄で地元に愛されてきた富久千代酒造。1970年代後半から日本酒消費量の低迷期に入り、さらに1990年代からの小売免許緩和によりディスカウントストアやスーパーマーケットの台頭で価格競争が激しくなると、経営が圧迫され始めました。その中でも酒質にこだわった酒造りを行い、今後どのようなお酒を造ろうかと模索していたころに転機がありました。「北九州の酒屋が小売店を中心にオリジナルのお酒を造る事例があり、そこへ学びに行った時、社長から『地元に誇れるようなお酒を造りなさい』と言われたのが“鍋島”を造るきっかけです」と飯盛代表。

そこで、平成8年（1996年）に地元佐賀の若手の小売店を口説き、飯盛代表も含め５人のメンバーで品質にこだわった日本酒を造ろうとプロジェクトチームを立ち上げました。当時のことを飯盛代表は「ブランド名を決めることが難しかったですね。いろんな案が出ましたが、地元が誇れるお酒にしたいという熱い思いから、佐賀新聞で公募を行いました。そこで決まったのが“鍋島”です」と話します。

さらなるブランディングのために、製造ブランドを“鍋島”一本に。以後少しずつ“鍋島”は認められ、全国酒類鑑評会で7年連続金賞を受賞するなど、現在も高い評価を受け続けています。

“鍋島”の製造コンセプト

“鍋島”の酒造りについて、「米の力を信じて、その特徴を生かしたこうじ造りや発酵管理をするほか、生酒のようなフレッシュさを求めた火入れの酒造りをしています。これからは食事に合うお酒、飽きずに飲み続けられるお酒を目指して、もっといろんなシーンで鍋島を飲んでもらえるようになりたいです」と飯盛代表は話します。

現在は海外からの見学者向けに、お酒を飲んで泊まってもらえるゲストハウスを計画中。また、農業法人を立ち上げ、米づくり体験や棚田の景観を守る取組も行い、鹿島のまちづくりにも貢献できる酒蔵として、富久千代酒造は歩み続けていきます。

お米のうま味を持ち
すっきりした味わいの
“鍋島”

代表取締役
飯盛（いいもり）　直喜（なおき）／理絵（りえ）

富久千代酒造有限会社
☎ 0954-62-3727
[所]鹿島市浜町1244-1
[創業]大正末期
[従業員]22名
[HP] https://nabeshima.biz/　富久千代酒造　検索

ここがポイント！

IWC※2011のチャンピオン・サケに選ばれ、それをきっかけに「佐賀の酒」が認知してもらえるようになりました。その時には小売店だけでなく、酒造組合や地元の酒蔵も自分のことのように喜んでくれました。

※IWC：ロンドンで毎年4月に開催される世界的なワインコンペで、平成19年（2007年）からは日本酒部門が設けられています

16
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（コスメ系）

株式会社ブルーム

安全・安心を
検査・分析で支える技術

検査から販売代行まで

化粧品の輸出入代行業務をはじめ、化粧品の分析などを手掛けるブルーム。平成3年（1991年）に創業し、輸入業などさまざまな事業展開を行い、今では分析試験から輸入代行、品質管理、物流までを一貫して行える体制を整えています。山﨑代表は「海外からの化粧品や医薬品の検査・分析や製造販売許可などの業務は本当に複雑です。弊社の強みは、その全てを行える国内唯一のインフラを持つことです。もちろん検査・分析のスピードの速さと精度の高さも強みの一つ。そのための設備や人材も高いレベルを求めています」と語ります。

品質管理の行き届いた製品には、安全・安心という付加価値がつきます。同社は、化粧品・医薬品の国内メーカーからはもちろん、海外有名ブランドからも非常に高い評価を受け、今では全世界で300社以上との取引を行っています。月に3,000件もの分析を行うそのノウハウはデータとして蓄積され、より良い品質向上や製造販売でのサービス向上につながり、農業や水質の分野へも事業を拡大しています。

唐津から世界へ

同社は、佐賀県が推進する化粧品産業の拠点づくりを推進する“ジャパン・コスメティックセンター（JCC）”の中心にもなっています。「現在、ヨーロッパやアメリカから化粧品を輸入するには、時間もコストもかかり環境にもあまりよろしくありません。化粧品は、分析データがあれば同じ製品を作ることができるので、弊社の分析ノウハウを生かしながら、JCCのパートナーたちと協力し、海外の製品を唐津で作り始めました。そうすることで、輸送コストやリスクを減らすことができ、環境にも良い流通ができます。唐津は歴史的にもアジア・世界の玄関口なので好立地と言えます。弊社だけが成長するのではなく、産学官や大手企業などさまざまなパートナーと組んで唐津、佐賀を世界で有数のコスメの拠点にしたいですね。それこそが地域活性化につながると考えています」と山﨑代表。

唐津からコスメをアジア、そして世界へ。ブルームには、それを支え続けるノウハウがあります。

代表取締役
山﨑（やまさき）　信二（しんじ）

スタッフが最新の設備で
国内外の製品の
安全・安心を担保

株式会社ブルーム
☎ 0955-70-4701
[所]唐津市浜玉町浜崎1901-457
[創業]平成３年（1991年）
[従業員]40名
[HP] https://www.bloom-jp.com/　株式会社ブルーム　検索

ここがポイント！

ブルームは、さまざまな市場ニーズに素早く応えるため、また安全・安心な製品を確実に提供するため、社内には常に最新の分析設備と充実したスタッフの体制を整えています。さらに、本社敷地内には化粧品の輸入から販売までができる国内有数の施設を有しています。

17
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

卸売業・小売業

株式会社百田陶園

伝統の有田焼に新しい風

“1616/arita japan”の誕生

有田焼総合商社の百田陶園。バブル期以降の有田焼は、不況の時代が続いていました。それに危機感を抱いた百田代表は、平成24年（2012年）、デザイナーの柳原照弘氏、ショルテン&バーイングスとともに新ブランド“1616/arita japan”を立ち上げました。「柳原君が『世界中の家庭で食事ができるようにしましょう』と話していたのを聞いて、ハッとしました。生活様式が和から洋に日本も変わってきている中で、有田焼のデザインは変わっていません。例えば、フラットなプレートを作ってほしいとデザイナーは言うのですが、これまでの日本の器にそんな形はないんです。今の時代に合った提案をすべきだと感じました。海外の生活様式に合うようにフラットなデザインが求められています。今までの発想を変えなければなりません」と百田代表。

“1616/arita japan”は、有田焼の窯元3社と同社だけのプロジェクトとしてスタート。有田焼の伝統製法を生かした新たなデザインの器は、平成24年（2012年）のミラノサローネ※に出展され高い評価を得ました。

世界に通用するブランドへ

これまでの有田焼の職人たちには伝統への誇りがありました。そうした中、デザイナーと付き合っていくことで、新たな発見も多かったと百田代表は話します。「デザイナーはものづくりのとき、しっかりとしたコンセプトを持っています。職人はどちらかといえば直感と感性で作っていたので、何のためにこのデザインが必要なのかということを職人に“伝える”ことの重要性がプロジェクトを通じて大きな学びになりました」。

150年前に、有田焼がパリ万博で高い評価を得ました。再度、世界中で有田焼が見直されることによって市場が変わる手ごたえを“1616/arita japan”でつかんだ同社。令和2年（2020年）からは、さらにデンマークのデザイナーともコラボし、新たなデザインに取り組みます。「“1616/arita japan”は有田焼のスタートで、ゼロベースという意味。有田の未来を創っていきたいです」。百田代表の挑戦は続きます。

Elizabeth Heltoft Arnby

※ミラノサローネ：イタリアのミラノで毎年開催される世界最大規模の家具見本市

代表取締役
ももた　のりゆき
百田　憲由

世界中で高い評価を得ている
“1616/arita japan”

Inga Povilleit

株式会社百田陶園

☎ 0955-42-2519
[所]西松浦郡有田町赤坂丙2351-169
[創業]昭和47年（1972年）
[従業員]20名
[HP] https://1616arita.jp/　株式会社百田陶園　検索

ここがポイント！

Takumi Ota

百田陶園がプロデュースした陶磁器ブランド“1616/arita japan”はミラノサローネで発表されたことで世界的な注目を集め、平成25年（2013年）の“エル・デコ インターナショナル　デザイン アワード 2013”ではテーブルウェア部門で世界一に輝きました。

18
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

森鉄工株式会社

お客さまを第一に考えたプレス機メーカー

独自路線で成長

油圧プレス機や鍛圧機械の設計・製作を行う森鉄工。そのプレス機は、自動車部品をはじめ電気・電子部品など、精度の高い製品を幅広く作り出しています。

同社は大正11年（1922年）に農業用肥料を販売する企業として創業。その後、農機具の整備やモーター部品を製造する中で、昭和46年（1971年）に“自社でものづくりを行うメーカーになる”という思いが強まり、油圧プレス機の製造を開始しました。「我が社は、プレス機業界では後発だったので、認めてもらうためにはどうしたらいいのかを考えました」と森社長。当時プレス機はヨーロッパ製が主流でしたが、コストが高く、メンテナンスやサポートの評判もよくありませんでした。そこに商機を見つけた同社は、お客さまの要望に合ったプレス機のカスタマイズやメンテナンスをすることで差別化を図りました。そうして開発したのがファインブランキング※1プレスです。これにより精度の高いプレス機メーカーとしてのブランディングにも成功しました。「大手にはできない細やかなサービスを提供することと精度を高めていくことで、少しずつ実績を上げてきました」と森社長は話します。

お客さま第一主義

同社のものづくりの根幹はお客さまの要望にあります。「我が社の製品は、開発の段階から営業一人一人がお客さまのために何ができるかを徹底的に考えたものです。そうしたものづくりを行い、サービスを提供できることが強みですね」と森社長は話します。

今後は、IoT※2やITなど、お客さまから求められる技術をさらに高めるだけでなく、アジアやヨーロッパへの事業展開も視野に入れています。「海外のお客さまにも対応できるよう、社員の約40%が海外出張の経験を積むなど、準備を整えています。中国やタイ、インドへ技術指導をしながら、その国に合った機械も一緒に提案したいです」と森社長。今では28カ国で同社の製品が使われています。

世界市場で挑戦し続ける森鉄工。徹底されたお客さま第一主義は、塑性加工エンジニアリングメーカーとしてグローバルに発揮されています。

※1 ファインブランキング：抜き打ち加工を精密に行うプレス加工技術
※2 IoT：モノのインターネット。あらゆるモノをインターネットに接続すること

代表取締役社長
森（もり） 孝一（たかかず）

森鉄工の代名詞
“ファインブランキングプレス”

森鉄工株式会社

☎ 0954-63-3141
[所]鹿島市大字井手2078
[創業]大正11年（1922年）
[従業員]150名
[HP] http://www.moriiron.com/ 森鉄工 検索

ここがポイント！

森鉄工は、お客さまの製品開発をさらにサポートするため、平成27年（2015年）に“ものづくりlab”を開設。同社のさまざまなプレス機を試験運用することで、ものづくりを開発からサポートできる環境が整い、お客さまの要望に対し細かな対応が可能となりました。

19
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

サービス業

ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社

耳につけない対話支援機器 高精細音響技術の結晶

“聴こえ”の追求からの発明

平成24年（2012年）に設立し、難聴者だけではなく話す側からも歩み寄れるよう全ての人の“聴こえ”の支援を続けるユニバーサル・サウンドデザイン。

レコード会社でスピーカーの開発に携わっていた中石代表は「難聴者からの“聴こえやすい”というひと言をきっかけに、難聴者は音量を上げるのではなく、高精細でクリアにした音ならば聞き取りやすいことを新たに発見しました」と話します。そこから起業し、大学や企業との研究開発を重ね、平成24年（2012年）に医学的なエビデンスを取得した対話支援機器“comuoon（コミューン）”が誕生しました。難聴者が装着するものではなく、話し手が難聴者に届きやすい声や音を発する、という逆転の発想から生まれた商品。さりげなく生活に溶け込むコンパクトな卵型の機器には、デザイン性だけでなく、理想の音を追求した指向性の高いスピーカーなど、高度な技術が集結しています。小型アンプ部分は高級スピーカーのIC部分を手掛けていた佐賀エレクトロニックスと共同で開発。現在は、その製造拠点と研究室“九州R&Dセンター”を有しています。“世界中の人にもっとコミュニケーションをしてもらいたい”と発明された商品は、全国の学校、病院、介護施設などにも導入され、販売台数は1万台に迫ります。

QOL※の向上を目指して

広島大学で研究員を兼任する中石代表は、全国で講演を行い“聴こえ”に対する啓発活動も続けています。「“耳元で声を張り上げる”、“聞こえないだろうと無視して話す”など、難聴者への配慮や理解のなさをヒアリング・ハラスメント（ヒアハラ）と呼び、適切なコミュニケーションの必要性を伝えています。また、難聴者が認知症と誤認されるケースが多い現状から、“聴こえ”と“脳”の関係性の研究に取り組み、聴きとる脳の力すなわち“聴脳力（ちょうのうりょく）”を測定できるアプリも九州大学病院などと共同で開発しました。今後は治療器にも役立てていきます」と中石代表。難聴者の早期治療も視野に入れ、社会全体のQOLの向上へと前進しています。

※QOL：人生の質、生活の質の満足度をあらわす指標

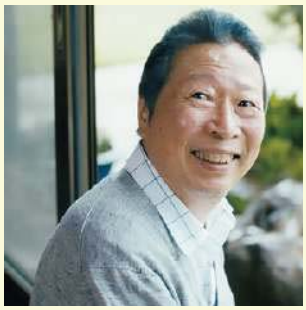
代表取締役
中石（なかいし）　真一路（しんいちろう）

話し手側が使う対話支援機器
“コミューン”

GOOD DESIGN AWARD 2017

ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社
☎ 0952-37-8208
[所]神埼郡吉野ヶ里町立野950
[設立]平成24年（2012年）
[従業員]18名
[HP] https://u-s-d.co.jp/　ユニバーサル・サウンドデザイン　検索

ここがポイント！



コミューンは、グッドデザイン賞など多くの賞を受賞。令和元年（2019年）9月には、“難聴と認知症”をテーマにしたショートムービー“気づかなくてごめんね”を俳優の石倉三郎氏が主演。これをきっかけに、同年10月からコミューンのイメージキャラクターに就任いただきました。

20
SAGA SAIKO
COMPANY PROFILE

製造業
（機械金属系）

株式会社 ワイビーエム

国内シェア約70%
環境機械製造のパイオニア

地下と水の技術で環境を守る

「私たちの仕事は“塀の中”なんですよ」。そう明るく話してくれたのは、地盤改良や土壌地下水汚染調査などで使用される環境機械の製造で国内シェア1位を走り続けるワイビーエムの吉田社長。

中小企業庁の第50回グッドカンパニー大賞特別賞を受賞し、経済産業省の地域未来牽引企業にも選定された同社ですが、“環境機械”と聞いても、パッとは分かりにくいかもしれません。吉田社長いわく「要は、建築機械を作っている会社です」とのこと。主に工事現場の基礎に使われる機械であり、騒音や安全性の面から“塀の中”で活躍しているため、一般の人の目には触れにくくなっています。

もともとは戦後すぐに鉱山用機械の製作からスタート。地下を掘るボーリングマシンの製造を機に、建物を建てる際の基礎部分を作るための地盤改良や地下水の調査、浄化用関連の機器製造に徐々に特化するようになりました。徹底した低騒音・小型軽量化・省人化・省力化・スピード化・コンピュータ化、そして安全を目指し、研究開発を推進しています。

ミリ単位の制御技術でNo.1に

平成7年（1995年）の阪神・淡路大震災で地盤改良等の技術が注目され、平成23年（2011年）の東日本大震災で発生した液状化現象などにより、再度その重要性が叫ばれるようになりました。東京2020オリンピック・パラリンピックを前に建築ラッシュに沸く建築業界においても、なくてはならない技術です。

「技術的には、宇宙でも制御可能です」と吉田社長が胸を張るように、進化し続ける通信技術を味方につけ、遠隔地操作による細かな制御も可能に。10メートルはあるボーリングの機械で穴の深さをミリ単位で制御できる技術は他に類を見ません。

また、水の浄化システムの研究開発や、有明海にも応用される底質改善など環境への技術開発も進められています。

「チャレンジするところに成長がある」と語る吉田社長の下、全く新しい分野への取組も積極的に行い、次世代へ向けて挑み続けています。

代表取締役社長
吉田（よしだ） 力雄（りきお）

全国の地盤改良で活躍している
GIシリーズ

株式会社ワイビーエム
☎ 0955-77-1121
[所]唐津市原1534
[創業]昭和21年（1946年）
[従業員]280名
[HP] https://www.ybm.jp/ ワイビーエム 検索

ここがポイント！

海外でもワイビーエムの機械は高く評価されており、特に東南アジア、中国にシェアを広げつつあります。事務所のあるインドネシアでは、スマトラ島に新たな高速道路を作るJICAのプロジェクトに参加。“地下と水の技術”で、美しい地球環境づくりにグローバルに活躍しています。